

平成25年度教育研究活動報告書

氏名	高山 毅	所属	経済情報学部経済情報学科
学位	博士（工学）	職位	教授
専門分野	活用指向のデータベース設計		

I 教育活動	
本年度担当科目	
学部	プログラミングII プログラミングII実習 基礎演習I 情報活用基礎II（2クラス） プログラミング実習（2クラス）
大学院	プログラミング特論 （開講すべく準備していたが、履修登録者がなく非開講）
II 研究活動	
これまでの主な研究業績（5件まで）	
（1）〈論文〉“プローブパーソンによる集合知を用いた路面凍結情報提供方式の提案と評価”，情報処理学会論文誌，Vol.49, No.7, pp.2549-2573, 2008.	
（2）〈論文〉“An Efficient Method for Odor Retrieval,” Springer LNAI (Lecture Notes in Artificial Intelligence)6889, Springer-Verlag Berlin Heidelberg, pp.160-172, 2011.	
（3）〈論文〉“Web文書のページタイプを用いた適応的分類と試作システムの評価”，日本知能情報ファジィ学会誌「知能と情報」，Vol.18, No.2, pp.319-336, 2006.	
（4）〈論文〉“固定数の感性語対の値の組合せによる音楽データベース検索のためのインタフェース'2D-RIB” ，日本データベース学会論文誌DBSJ Letters, Vol.3, No.4, pp.29-32, 2005.	
（5）〈論文〉“Personalization by Relevance Ranking Feedback in Impression-based Retrieval for Multimedia Database,” Journal of Systematics, Cybernetics and Informatics, Vol.3, No.2, pp.85-89, 2006.	
本年度を含む過去3年間の研究業績	
（1）〈論文〉“On Picking up Method of Expectable Customers in Recommendation,” NAUN International Journal of Systems Engineering, Applications and Development, Vol.7, Issue 1, pp.13-21, 2013.	
（2）〈論文〉“Improvement of Recommendation List Effectiveness Using Familiarity,” NAUN International Journal of Systems Engineering, Applications and Development, Vol.7, Issue 1, pp.22-32, 2013.	
（3）〈論文〉“An Efficient Method for Odor Retrieval,” Springer LNAI (Lecture Notes in Artificial Intelligence)6889, Springer-Verlag Berlin Heidelberg, pp.160-172, 2011.	
（4）〈論文〉“Waiting/Cruising Location Recommendation for Efficient Taxi Business,” NAUN International Journal of Systems Applications, Engineering and Development, Vol.5, Issue2, pp.224-236, 2011.	
（5）〈論文〉“Proposal of a Next Generation Network Architecture Based on Web Service Technology,” IEICE Transactions on Communications, Vol.E94-B, No.6, pp.1617-1620, 2011.	
現在の研究テーマ（3つまで）	
（1）レコメンデーションのためのデータベース	
（2）観光のためのデータベース	
（3）可視化のためのデータベース	
研究テーマの進捗状況	今年度は、「レコメンデーションのためのデータベース」領域を中心に進めた。レコメンデーションに誘導されやすい顧客を抽出する方式として「吉兆度方式」を提案し、実際の購入履歴に基づいた実証実験で、その有効性を示した。また、レコメンデーションに乗って顧客が誘導されるために、顧客相互が親密であることは有効に作用すると仮定し、実際のデータを用いてこれを検証した。携帯端末上でのソーシャルメディア向け超軽便レコメンデーションでは、処理負荷を軽便にするための方式を検討し、実際に実装を進めている。今後、準備が整い次第、実験に進む予定である。「観光のためのデータベース」領域では、観光情報学会で主催/共催する学会に積極的に参加し、最新動向を収集するとともに、今後進むべき方向の検討を進めた。